

「自分の天井を勝手に決めない」 短答4度目の挑戦と予備校移籍で掴んだ合格

本記事は、公認会計士試験の合格者へのインタビューに基づき、受験生の皆さんが合格を勝ち取るための学習戦略やマインドセットを詳しく紹介するものです。

H・Nさんは、大学受験の挫折をバネに会計士を目指し、4度の短答式試験と予備校移籍を経て見事に最終合格を果たしました。

本記事では、H・Nさんがどのような思いで試験に臨み、具体的にどのような手法で膨大な試験範囲を攻略していったのかを深掘りしていきます。

合格者紹介

H・N



・経歴:

大学受験の第一志望不合格という挫折を経て、大学在学中に会計士の学習を開始。短答式試験3度の不合格を乗り越え、予備校移籍という環境の変化も味方につけて合格。

・学習スタイル:

「KPT(Keep・Problem・Try)」による徹底した自己分析と、タスクを可視化して達成感を積み上げる「付箋管理術」を実践。

・メンタル:

「自分の天井を勝手に決めない」を信条とし、結果そのものよりも、限界まで努力した「過程」に価値を置いた。

インタビュー

公認会計士を目指したきっかけと揺るぎない志の重要性

——合格おめでとうございます。H・Nさんは、事前のアンケートでも「会計士になりたい理由」や「将来の夢」を非常に明確に掲げておられました。多くの受験生が学習を進める中で迷いが生じることも多いですが、H・Nさんのその「志」の強さはどこから来ているのでしょうか。

H・N:

私がこれほどまでに「なぜ会計士を目指すのか」にこだわったのは、以前、学習塾で生徒の学習相談に乗る仕事をしていた時の経験が大きく影響しています。

そこで多くの生徒を見ていて気づいた傾向があります。それは、「天才タイプでない限り、理由が曖昧な人は必ず途中で脱落する」ということです。

——ご自身の経験則として、「志」がなければ長期戦は戦えないと確信していたのですね。

H・N:

天才ならなんとなく始めても受かるかもしれませんが、私はそうではありません。だからこそ、撤退せずに自分の限界まで努力し続けるためには、自分を支える強固な「志」が必要だと考えました。

その上で、私が会計士を目指した理由は大きく3つあります。一つ目は、大学受験での「失敗からの戦略的転換」です。私は第一志望だった東京大学に落ちて、慶應義塾大学に進学しました。その際、学歴という土俵では「上には上がいる」という現実を痛感しました。同じルートで戦っても勝てない。ならば、資格という別の武器を持って「差別化」を図るしかないと考えたのが直接的なきっかけです。

——第一志望の大学の不合格が決まった直後から、すでに次を模索していたのですね。

H・N:

二つ目は「環境」です。友人の父親が公認会計士として独立しており、時間や場所に縛られず自由に働

き、経済的にも成功している姿を間近で見えていました。「組織に縛られない自由な生き方」のロールモデルが具体的にイメージできていたことは大きかったです。

三つ目は、私の「性格」と「適性」の合致です。私は将来、起業やコンサルティングに携わりたいと考えていましたが、ゼロから新しいものを生み出すクリエイティブな才能はありません。一方で、現状の問題点を分析して改善策を考えることは好きでした。ビジネスの現場でその適性を活かすなら、弁護士よりも会計士が最適だと考えました。

また、私は非常に「心配性」なんです。起業というリスクを取るためにも、会計士というセーフティーネットがあれば、安心して挑戦できると判断しました。

——不合格という挫折、周囲の環境、そしてご自身の性格分析という3つの視点から、非常に論理的に公認会計士への道を選ばれたのですね。しかし、どれほど強い思いがあったとしても、長期間の試験勉強の中で心が折れそうになる瞬間はあったと思います。多くの受験生がなんとなく学習を始めて途中で苦しむ中で、H・Nさんが最後まで走り抜けた「秘訣」は何だったのでしょうか。

H・N:

それは、大学受験の失敗経験から「結果よりも過程が大事だ」というマインドセットを持っていたからです。第一志望には落ちましたが、自分で志望校を決め、自分で計画を立て、限界まで努力しました。結果は不合格でしたが、その「全力を尽くした過程」があったからこそ、自分に自信を持つことができました。

正直、最初は会計士試験を甘く見ていた時期もありましたが、短答4回目という崖っぷちになっても「自分がやり切ったと思えるまでは絶対に辞めない」と決めていました。中途半端に辞めるのが一番良くない。最大限努力した上でダメなら仕方ない、その「やり切った過程」から学べるものは必ずあるはずだと信じていました。

何も考えずに勉強している人には負けたくないという思いと、この「過程を重視する視点」があったからこそ、最後まで走り抜けることができたのだと思います。

——大学受験の時点で全力で頑張っていたからこそ、合格・不合格という結果以上に、やり切る自分を信じることができたということですね。素晴らしいマインドセットです。また、モチベーション維持のために具体的に行っていたことはありますか。

H・N:

監査法人のオフィスツアーには積極的に参加しました。Big4と呼ばれる大手監査法人のツアーはすべて回りました。

実際に職員の方々と話し、自分が働く姿を具体的にイメージできるようにしておくことは、苦しい時期の大きな支えになりました。

予備校の移籍と

環境の変化がもたらしたもの

——H・Nさんは、以前は別の予備校に在籍されており、途中からCPAへ移籍されました。環境を変えるのは勇気がいることだと思いますが、予備校間の違いや移籍の経緯についてお聞かせください。

H・N:

以前の予備校は、非常にアットホームで受講生全員が知り合いという環境でした。人数が少ない分、どうしても「天井」が低くなってしまいうるか、努力の基準値が下がってしまう感覚がありました。1人がサボると私もつい一緒になってサボってしまいました。

——CPA新宿校のような大規模な校舎と比較してどう感じましたか。

H・N:

CPA新宿校に来て感じたのは、「上には上がいる」ということです。私は朝6時半に自習室に行っていましたが、そこにはいつも同じメンバーがいて、夜まで勉強している。その努力の幅や真剣度は、以前の環境とは段違いでした。CPAの方が自分より努力している人が可視化されやすく、刺激を受けました。

——移籍を決断した具体的な理由は何だったのでしょうか。

H・N:

理由は大きく3つあります。一つ目は「教材のマンネリ化」からの脱却です。短答式試験を4回受ける中で、手元のテキストをやり尽くしてしまっていました。同じ問題を解いても、答えを覚えてしまっていて、理解していなくても「なんとなく」で正解できてしまう状態でした。そこで心機一転、違う教材でゼロから学び直したいと考えました。

二つ目は「退路を断つため」です。もし次に不合格だった場合、「塾の雰囲気合わなかったから」とか「教材が」といった言い訳を一切できないようにしたかったんです。「今一番勢いがあり、やる気のある専門学校」として評判のCPAに入って、それでもダメなら、それは完全に自分の実力不足であり、自分の責

任だと覚悟を決めるためでした。CPAでは講師一人ひとりが自信を持って指導にあたっている熱量を感じられたのも良かったです。

三つ目は「物理的な学習環境」です。私はブース型の自習室が好きだったのですが、以前の校舎は自然光が入らず、昼間でも少し暗いのが気になっていました。CPAの自習室はブース型で、かつ明るくきれいな環境が整っていたので、毎日通う場所として精神衛生上も良いだろうと判断しました。

——実際に新しい教材に移行したときに自分の中に混乱などはありましたか。

H・N:

混乱はほとんどありませんでした。財務会計論の計算テキストだけは使い慣れた以前の予備校のものを継続しましたが、論文対策講義などはCPAのテキストに切り替えました。

移籍して良かったのは、学習初期になんとなく「暗記」で済ませてしまっていた部分が、新しいテキストや講義に触れることで、「あ、これはこういう理屈だったのか」と改めて理論的・体系的に整理されたことです。無駄なく知識を再構築でき、理解が深まりました。

「KPT」による毎日の振り返りと徹底した自己分析

——H・Nさんからご提供いただいた資料の中に、日々の学習記録がありました。非常に特徴的だったのが、「KPT」を用いた毎日の振り返りです。これについて詳しく教えていただけますか。

H・N:

私は毎日、その日の振り返りをメモに書いて、友人に送っていました。形式は「KPT(Keep, Problem, Try)」です。「Keep(今日良かったこと)」「Problem(問題点)」「Try(明日どうしたいか)」の3点を毎日書き出していました。

< 8月
2025毎日の振り返り

📌 ...

0801 今日から8月！後悔しないように全力で頑張ろう！

- keep
 - ・正味13時間勉強した
 - ・常に集中して勉強できていた気がする。

- problem
 - ・夜帰宅してご飯食べすぎた。→帰宅する前に何を食べるか決めてから帰宅

- try
 - ・科目の時間配分のバランス注意。監査と財理は引き続き重要なのでメインでやる。財計連結もマスト。租税もまた再開する。

0802 あと20日！

- keep
 - ・勉強の予定は完璧に立てちゃったけど回すことを重視しすぎてやらなければならないことを結局手薄になっちゃった、とならないように毎日朝1時間は自分の好きなことやる時間にした！→いい試みかも。

- problem
 - ・せっかく無双していたのに結局16時くらいから怠けすぎた→結局YouTube見なかったとしてもやる気なくて全然進まないなら、今日の場合はカフェ移動して勉強すべきだった。→明日も予定のタイミングで一旦帰る。

↑Keep, Problem, Try ごとに毎日気づいたことをNotionで記録

——勉強の内容だけでなく、生活面なども含めて記録していますね。

H・N:

「今日は集中できた」といった学習面だけでなく、「ダイエットを頑張る」といった日常の些細なことも書いていました。

重要なのは、何でもいいから毎日書き出して振り返ることです。自分の良くなかった点を振り返らなければ、明日もまた同じようにダラダラと過ごしてしまいます。それを防ぐために、毎日を「やりっぱなし」にしないことを徹底しました。

● 管理会計論

間違えた理由をたらたら書くのではなく、どうしたら間違えないか？どうしたら点が上がるか？を書く

● 直前①

- ・資料にヒント(or結論部分)が書いてあることがあるからそれちゃんと使って良い
 - ・途中で計算割れなくなってもかけたら綺麗な数字になるのならOK。最初から割り切れなかったら自分の計算疑って、戻って計算し直す！
 - ・原価標準は！製品一個あたり！の標準原価で標準原価はそれに実際生産量(=数量)かけたもの！(ただの暗記)
 - ・原価計算基準系の問題絶対間違えるけど仕方がないのか..？
- ちゃんと原価計算編も言葉を意識して読む
- ・資金管理だから後回しにしたら簡単だから取れるところを落とした
- 手形がない&資料から計算すべき項目が明らかなので簡単だ！と問題見て見抜くべきだった
- ・見抜いた上で、問題2-2の乙には触れてる場合じゃなかった

↑管理会計論の振り返りメモ

——次に、提出していただいた「管理会計論の振り返りメモ」について伺います。これは日々のKPTとは別に、答練や模試の後に作成されていたのですか。

H・N:

そうです。これは答練や模試の後に作成していた「分析メモ」です。実はこのメモを作るようになった背景には、私の最大の弱点とも言える性格的な問題がありました。

——性格的な問題ですか？

H・N:

はい。私には大きく2つの弱点がありました。一つ目は「復習から逃げること」です。以前の予備校時代からの悪癖で、答練や計算問題を解きっぱなしにして、面倒な復習を放置しがちでした。二つ目は「心配性ゆえの非効率」です。本来はできない箇所を重点的にやるべきなのに、不安だからといって、すでにできている得意な部分ばかり回して勉強した気になってしまう癖がありました。本当に嫌なことから逃げやすい性格だったんです。

——「復習から逃げてしまう」「嫌なことを後回しにする」という弱点を克服するためのシステムが、このメモだったわけですね。

H・N:

その通りです。精神論では直らないと思ったので、具体的な「記録」と「ルール」で管理することにしました。まず「復習から逃げる」癖への対策として、必ずこの「分析メモ」を残すようにしました。以前の私は、答え合わせをして「あー、ケアレスミスした」「難しかった」といった単なる「感想文」で終わらせていました。しかし、それでは成績は伸びません。そこで、間違えた問題については、まず「解けるべき問題」と「捨て問」

を明確に区別します。その上で、解けるべき問題に関しては、「なぜ解けなかったのか」だけでなく、「どうしたら間違えないか？」「どうしたら点が上がるか？」という具体的なアクションプランまで言語化して書き残すようにしました。

——具体的にどのようなことを書いていたのでしょうか。

H・N:

「管理会計論の振り返りメモ」を例に挙げると、「資金管理だからといって後回しにしたら、実は簡単で取れる問題を落としてしまった」という反省に対し、「手形がない&資料から計算すべき項目が明らかなので簡単だ！と問題を見て見抜くべきだった」と書きま

す。他にも、「原価標準は製品1個あたりの標準原価であることを忘れない(ただの暗記ミス)」とか、「計算中に割り切れなくなったら、無理に進めず自分の計算を疑って戻る」といった具合です。単なる反省ではなく、次回の具体的な行動指針まで落とし込むのがポイントです。

また、「これは捨て問だな」と判断したものは、「ふーん」と解説を読む程度にして深入りせず、時間を使いきないようにしました。

——非常に具体的ですね。では、もう一つの「嫌なことを後回しにしてしまう」という弱点については、どう対策しましたか。

H・N:

こちらは「強制的なルーティン」で解決しました。私は計算科目が嫌いで、昼過ぎになると絶対にやりたくなくなって後回しにしてしまうんです。このため、「朝6時半に自習室に行き、朝イチで必ず計算の総合問題を1~2時間かけて解く」と決めました。一番嫌いな計算を、朝の元気なうちに終わらせてしまうんです。もう一つ、答練を受けた日には「復習が終わるまで昼休憩を取らない」という鉄の掟を作りました。

——復習が終わるまでお昼ご飯抜きですか？それはかなりストイックですね。

H・N:

はい(笑)。CPAの答練は朝から始まりますが、受けっぱなしにして放置する癖を直すには、自分を追い込む必要がありました。お腹が空くので必死に集中して復習をやりますし、嫌な復習から逃げられない環境を強制的に作ることで、弱点を放置しないサイクルを確立しました。

目標点数から考える勉強計画

——H・Nさんの学習計画の立て方についても教えてください。

H・N:

大きな最終ゴールから逆算して、中期的な目標、日々のタスクへと落とし込んで計画を立てていました。カレンダーに科目ごとの目標点数や偏差値を書き出し、そこから1日単位のスケジュールを決めました。

日々の管理には、黄色の付箋を使っていました。毎日、机に付箋を貼り、「6時半から7時半は財務会計論の計算」といった具合に時間単位でタスクを書き出します。そして、終わったタスクから付箋の文字を消していくことで、達成感を視覚的に確認していました。

また、計画はどうしても崩れるものなので、崩れた時の対応も決めていました。「時間と量」のバランスを意識し、計画が遅れたときでも、「これだけは死守する」という最低限のラインを設けていました。例えば、「租税法は毎日必ず2時間確保する」「問題集を1日1問は解く」といったルールです。計画が崩れた時、私は嫌いな科目を後回しにしがちだったので、あえて嫌なもの、苦手なものから先に取り組みようにしていました。

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

↑左下に目標点数や偏差値が書き込まれている。

挫折からのリスタートと

「理解」への回帰

——ここまで徹底した学習スタイルを確立されるまでには、紆余曲折があったと思います。学習初期から順調だったのでしょうか。

H・N:

いいえ、全くそんなことはありません。大学1年生の頃は、正直に言うとあまり真面目な受講生ではありませんでした。

「大学生活は会計士になるためだけにあるのではない」と開き直って、サークル活動や月に100時間のアルバイトに明け暮れていました。財務会計論の講義中に寝てしまうことも多かったです。

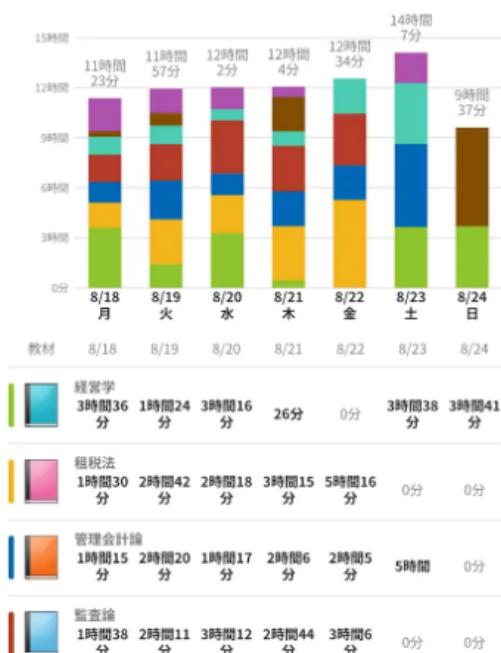
——そこからどのようにしてスイッチが入ったのですか。

H・N:

2年生の時に、講師の方から「このままだとやばいよ」と言われたこと、そして周囲の友人が合格し始めたことで焦りを感じました。最初は1日10時間の勉強に戻すのも辛く、完璧主義な性格も災いして「なんでこんなに頑張れないんだろう」と自分を責める日々でした。

しかし、徐々に勉強時間を増やしていくと、比例して理解も深まり、勉強自体が楽しくなってきました。本格的に「受かる」という希望が見え始めたのは、短答3、4回目の頃です。次落ちたら撤退するという覚悟を決めた時期でしたが、同時に最も勉強に夢中になっていた時期でもありました。最後の半年間は、正味13時間くらい勉強していました。

すべての教材 ▾



↑直前期の勉強時間

——CPAは「理解重視」を掲げていますが、その点についてはどう意識されておりましたか。

H・N:

以前の私は、どこかで「暗記すればいい」と考えていた部分がありました。しかし、理解が伴っていないと、結局は記憶に定着しないことに気づきました。特に論文期には、わからない論点があれば手間を惜しまず講義動画を見返しました。財務理論であれば、その論証例にいくつの論点が含まれているかまで精査し、「こうだからこうなる」というロジックを徹底的に潰していきました。

——講義をもう一度見直すのは時間がかかりそうですが、効果はありましたか。

H・N:

ありました。覚えられないのは、根本的に理解できていない証拠だと思ったからです。全体像を把握し、理論的な背景を自分なりに整理することで、結果的に暗記の負担も減りました。そうやって理解を固めたことで、財務会計論の理論は得意科目にすることができました。

受験生へのメッセージ

——H・Nさんのお話を聞いていると、ご自身の弱さと向き合い、それを克服するための具体的なシステムを作り上げたことが合格の要因だったと強く感じます。最後に、現在頑張っている受験生に向けてメッセージをお願いします。

H・N:

受験生の皆さんにお伝えしたいのは、「自分の可能性を信じてほしい」ということです。皆さんが思っている以上に、自分をもっと努力できるし、もっと成長できます。

自分の天井を勝手に決めつけず、あともう一步だけ深く踏み込んでみてください。

その一步の積み重ねが、今の自分を大きく変えてくれるはずです。一つのことにとこれほどまで情熱を注げる機会は、人生においてそう多くはありません。ぜひ、この会計士受験という挑戦そのものを楽しみながら、合格を掴み取ってください。応援しています！

まとめ

今回の対談を通じて、H・Nさんが合格を勝ち取るために実践してきた数々の戦略が明らかになりました。

- 揺るぎない志を持つ:
「なぜ会計士になりたいのか」を明確にし、大学受験の挫折経験を「過程を重視する」マインドセットへと昇華させた。
- 環境を変える勇氣:
現状の環境に甘んじず、周りのレベルがより高いCPAへ移籍することで、自らの基準値を引き上げた。
- 徹底した自己分析(KPT):
毎日の学習内容だけでなく、生活面も含めて「Keep, Problem, Try」で振り返り、日々改善を繰り返した。
- 具体的な弱点分析:
答練や模試の復習では、単なる感想ではなく「なぜ間違えたか(読み飛ばし、前提の勘違いなど)」「次はどうするか」を具体的に言語化し、行動レベルまで落とし込んだ。
- 自分を律するルール作り:

「朝一で計算を解く」「直しが終わるまで昼休憩なし」など、苦手なことから逃げないための強制的なルーティンを確立した。

• 理解への回帰：

暗記に逃げず、講義を見返してでもロジックを理解することで、知識を盤石なものにした。

H・Nさんの合格は、才能だけで掴んだものではありません。自身の弱さを認め、それをカバーするための仕組みを作り、泥臭く努力を積み重ねた結果です。

「自分の天井を決めない」という彼女の言葉は、今まさに壁にぶつかっている全ての受験生の背中を押してくれることでしょう。

一步の積み重ねが、今の自分を大きく変えてくれるはずです。一つのことにこれほどまで情熱を注げる機会は人生においてそう多くはないと思います。

ぜひ、この受験生活という挑戦を楽しみながら、合格を掴み取ってください。応援しています！